

ボールパーク整備運営事業 (サウンディング調査における参考資料)

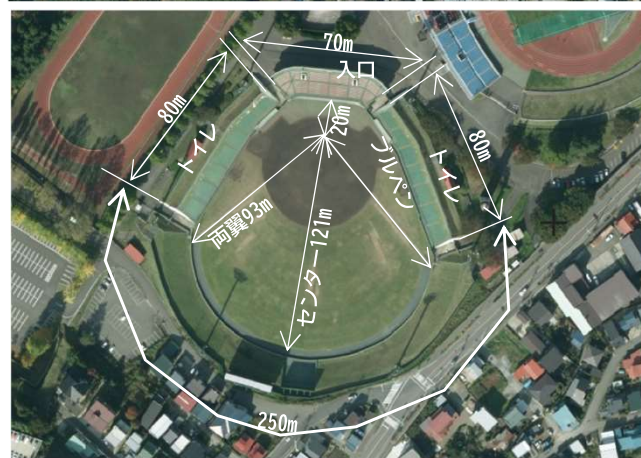
【概要版】
令和 7 年 1 1 月
青森県

1. 施設概要

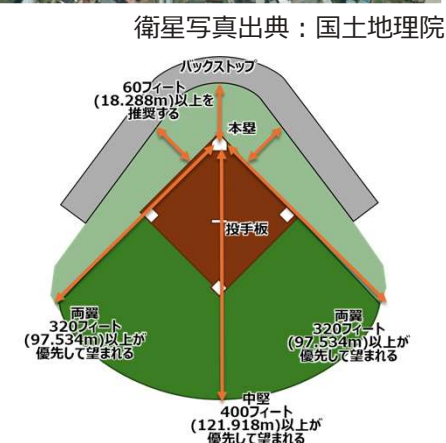
■ 現県営野球場 施設概要

施設の概要	
所在	青森県青森市安田 三内丸山遺跡・県立美術館近く 用途地域：第二種住居地域内 第1・2種低層住居専用地域に接する
竣工年	昭和42年（1967年）
建設費	約1.1億円（建設当時）
指定管理者	PFI青い森スポーツパーク株式会社 （令和6年4月1日～令和21年3月31日） ※青森県総合運動公園・運動施設及び新青森県総合運動公園対象
利用者数（R5）	26,082人
収容人数	21,016人
座席数	5,016席（ベンチ数）
延べ面積（※）	7,481㎡
構造	RC造 一部地上3階建
規格	両翼 93m、センター 121m 内野 クレー舗装、外野 天然芝 ファウルライン～スタンド間 24m ナイター照度 1,000lx

※既存施設の面積は、図面計測に基づく



衛星写真出典：国土地理院

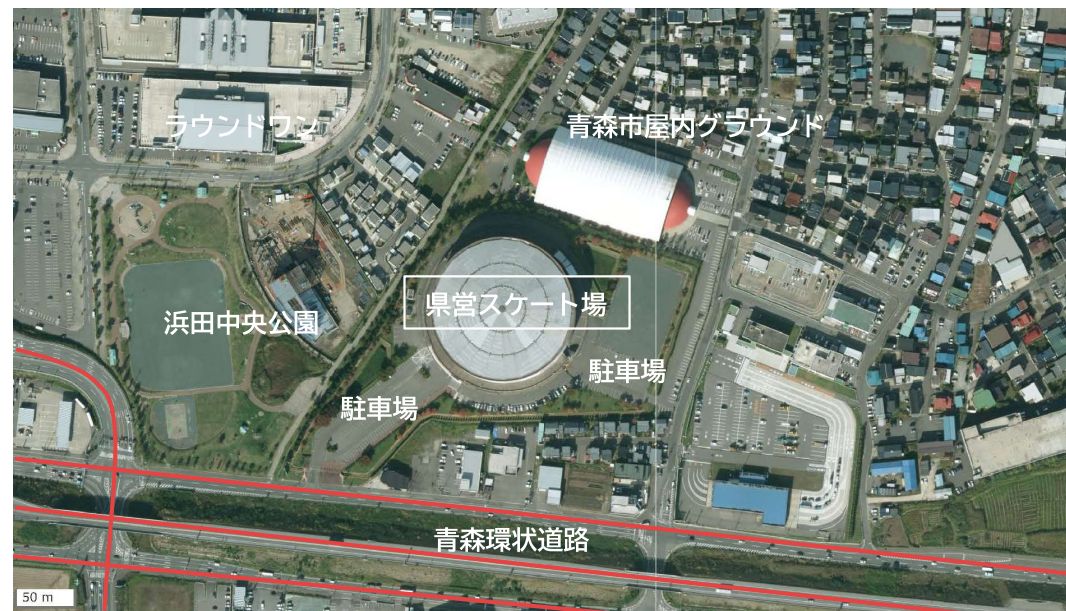


「2024年度 公認野球規則」
に定められた競技場の大きさ

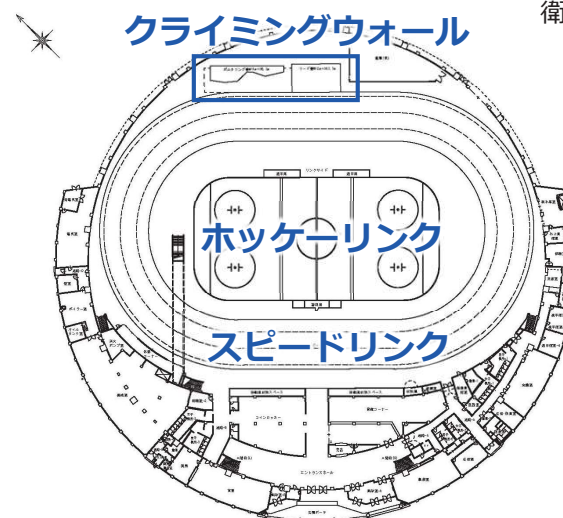
1. 施設概要

■ 現県営スケート場 施設概要

施設の概要	
所在	青森県青森市大字浜田字豊田地内 用途地域：準工業地域内 第1低層・中高層住居専用地域に接する
竣工年	昭和60年（1985年）
建設費	約44.7億円（建設当時）
指定管理者	豊産管理株式会社 （令和7年4月1日～令和9年3月31日）
利用者数（R5）	83,436人
座席数	1,058席（スケートリンク使用時） （2階：1,058席（固定席）） 7,000席～10,000席以上（コンサート使用時）
延べ面積	13,139.325㎡
構造	鉄骨造 一部RC造 一部地上2階建
規格	スピードリンク ダブルトラック 12m×250m アイスホッケーリンク 国際規定 30m×60m リード施設 高さ約 13.7m×幅約 12m ボルダリング施設 高さ約 5.3m×幅約 18m
スケートリンク 運営方式	季節型 冬季：アイススケートリンク 夏季：インラインスケートリンク



衛星写真出典：国土地理院



図面出典：青森県営スケート場HP

2. 検討対象地の概要

(1) 位置概要

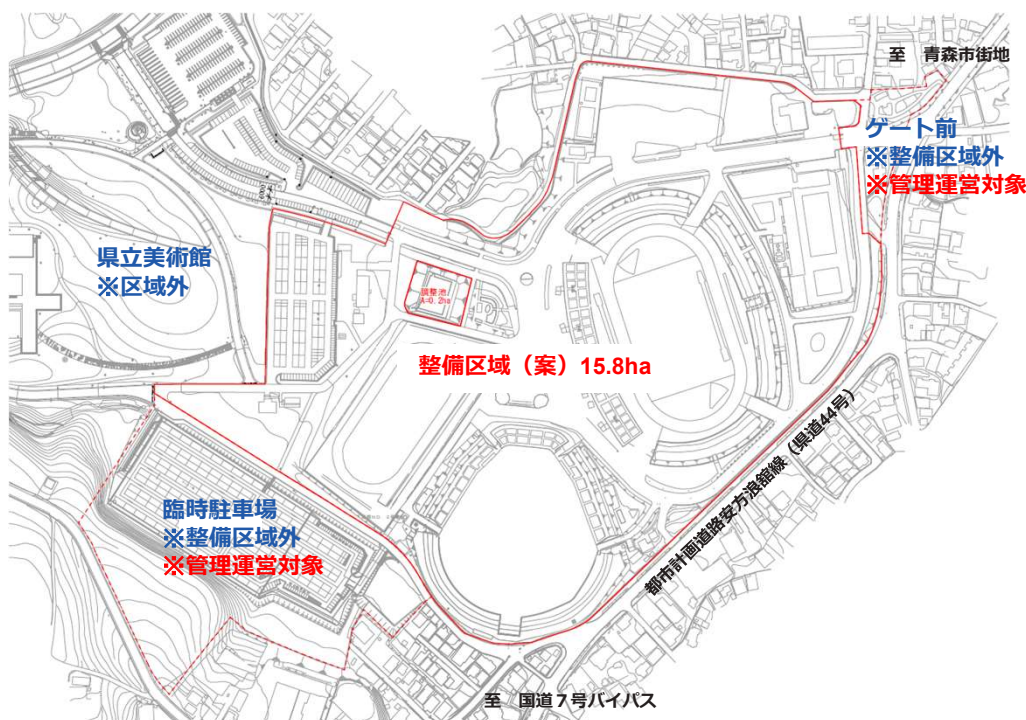
■ 検討対象地の概要：青森県総合運動公園（安田）地内



検討対象地の概要		
所在	青森県青森市安田 三内丸山遺跡・県立美術館近く 用途地域：第二種住居地域内 第1・2種低層住居専用地域に接する	
概要	・S43年開設。H7年に三内丸山遺跡の整備と公開を開始 ・H14年に縄文時遊館、H18年に県立美術館が同園内に開設 ・現状も運動公園として認知、利用されており事業との親和性は高い	
コンセプトとの適合性	①県民が思い思いに楽しめる	○敷地が広く、多様な機能を配置することが可能で、様々な目的を持って集まりやすい環境を構築可能 ○高速ICに近く、公共交通でのアクセス性も高いなど、どの世代にとっても利用しやすい
	②野球を楽しむ	○野球をする・親しむといった視点での施設整備が可能 ○現在まで長きにわたって野球場が供用されており、事業との親和性は高い
	③多様なスポーツを楽しむ	○敷地内が広く、野球以外のスポーツや運動ができる施設について、多様な選択肢を検討しやすい ○隣接する文化観光施設と連携した季節に応じた様々なイベントが可能
	④普段使いを楽しむ	○周辺は住宅地であり、小さな子どもや中高生、お年寄りといった多様な世代の人々が日常的に集まる施設のニーズを満たしやすい（徒歩圏内人口約3.3万人） ○敷地が広く、車でのアクセスを想定した駐車場の確保も容易 ○スポーツ以外の催し物や集まりを開く場としての需要を満たしやすい ○高速道路IC、陸上自衛隊駐屯地も近く、災害発生時の拠点としての活用も期待される ○賑わいの創出により、日常的なビジネス利用の場所としての可能性がある
	⑤青森らしさを楽しむ	○三内丸山遺跡・県立美術館と連携した青森らしい施設とすることが可能 ○公園内の豊かな自然・樹木（あすなろ・ヒバ・もみなど）との調和可能

2. 検討対象地の概要

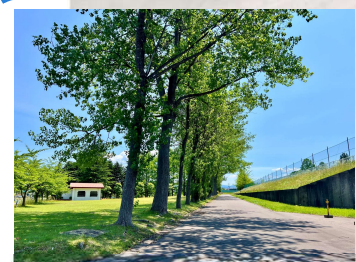
(2) 敷地概要



敷地の概要	
法適用現況	○現状も運動公園として認知・利用 都市計画区域 市街化区域 第二種住居地域 広域公園(大規模公園 9・6・1 青森県総合運動公園) 容積率 200% 建蔽率 運動施設・休憩施設 10% 便益施設 2% (P-PFI: 10%上乘) 道路斜線 適用距離20m、勾配1.25 隣地斜線 立ち上がり20m、勾配1.25 北側斜線 適用無し 日影規制 敷地内: 高さ10m超対称、測定面高さ4m、5時間～3時間 北側隣接地: 第1種低層住居専用地域 軒高7m超or 3階以上対象 測定面高さ1.5m、4時間～2.5時間 接道条件 都市計画道路 3・4・1 1 安方浪館線 (W=16m、車線数2)
周辺人口構成	居住者・若い世代も多い ・約33,000人(2Km圏内、R2年国勢調査人口データより) 65歳以上30%、15-64歳56% 15歳未満13%
主要幹線道路からのアクセス	・自家用車アクセス(青森IC3分) ・JR青森駅からバス約17分(36本/日) ・JR新青森駅からバス約11分(12本/日)
交通量・混雑度	都計計画道路安方浪館線(県道44号) W16m (0.8万台/日、混雑度0.95) 国道7号 (2.1万台/日、混雑度1.45)
安全性	・入内断層の近隣
周辺連携	・三内丸山遺跡、青森県立美術館、医療施設、福祉施設、陸上自衛隊
埋蔵文化財	・周知の埋蔵文化財包蔵地(近野遺跡)
その他課題	・特別史跡三内丸山遺跡の世界文化遺産登録による眺望・景観等の影響に留意が必要 ・古い公園であり排水路などインフラの位置把握と再整備が必要

2. 検討対象地の概要

(2) 敷地概要



三角広場はこどもの遊びや運動などの利用による賑わいがみられます。また、ポプラ並木が豊かな景観を形成しています。



管理事務所前の緑豊かな園路は、ジョギング等の日常的な利用がみられます。



幹線園路は、積雪時に路側への除雪が可能な広い道幅となっています。



臨時駐車場として位置づけられていますが、キャッチボールやグランドゴルフ、サッカーの練習など、日常的に利用されている広場です。現状の用途を変更しないため事業範囲に含みません。



補助陸上競技場は、陸上やサッカー等の練習のほか日常的な運動を目的とした利用がされています。



民間の施設が立地しているため、事業範囲に含みません。



旧陸上競技場からは青森県を代表する名峰、八甲田連峰を望むことができます。

3. 整備方針

(1) 整備する施設の考え方

コンセプト『季節に応じて日常的に集い楽しめるボールパーク』

1. 県民が思い思いに楽しめる

- ①誰もが楽しめる
- ②どの世代も安心して快適に利用できる

2. 野球を楽しめる

- ①選手・関係者が利用しやすい
- ②競技力向上につながり、天候に左右されずに練習できる
- ③見やすく応援しやすい
- ④安全・快適に利用できる
- ⑤子どもたちが気軽に野球に親しめる

3. 多様なスポーツを楽しめる

- ①野球以外のスポーツや運動もできる
- ②季節に応じて楽しめる

4. 普段使いを楽しめる

- ①小さな子どもも楽しめる
- ②いつでも楽しめる
- ③イベントやライブを楽しめる
- ④災害時にも役立つ
- ⑤ビジネス利用、多様な働き方に役立つ

5. 青森らしさを楽しめる

- ①青森の伝統や文化を発信する
- ②周辺の自然・景観と調和する
- ③青森の気候や環境を有効活用する

○野球場

- ・1.5万人収容可能な青森県を代表する球場
- ・誰もがプレーしたくなる憧れの球場
- ・多様な観戦スタイル、多様な利用目的で楽しめる球場

○スケート場

- ・季節型もしくは通年型のスケートリンク（60m×30m）を有する県民利用を中心としたウィンタースポーツが楽しめる施設

○屋内運動場

- ・天候に左右されず多様な世代の方が通年で様々な運動が楽しめる施設
- ・小さな子どももボール遊びや野球体験ができる施設
- ・広域防災拠点として県内で災害が発生した場合に物資拠点となり得る施設

○防災備蓄倉庫

- ・広域防災拠点として県内で災害が発生した場合に備えた備蓄物資を保管する倉庫

○多目的広場

- ・青森の新たな誇りとなる日常的なやすらぎ・憩い・賑わいのある都市公園
- ・季節に応じた様々な楽しみ方ができる都市公園
- ・官民が連携した様々な運動やスポーツが楽しめる都市公園

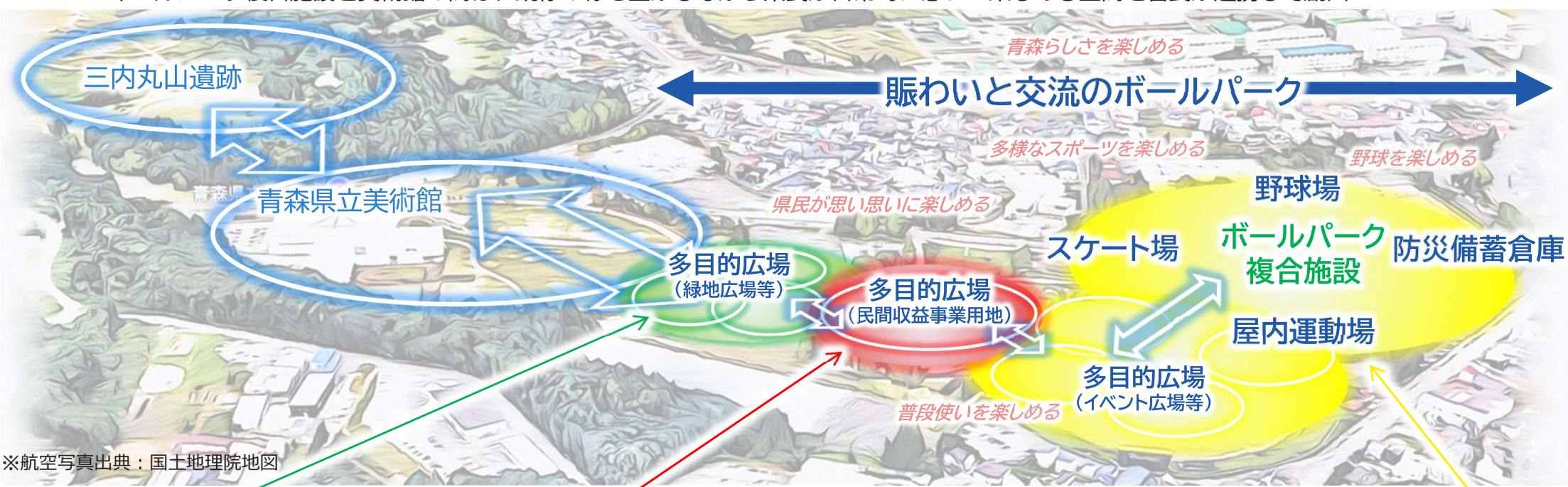
○駐車場

- ・安全で使いやすい・停めやすい、分散配置された駐車場
- ・広域防災拠点として県内で災害が発生した場合に活動拠点となり得る施設

3. 整備方針

(2) ゾーニングイメージ

- ・三内丸山遺跡や青森県立美術館と賑わいと交流を一体とするゾーニング
- ・ボールパーク複合施設と美術館の間は、既存の緑も生かしながら県民が日常的に憩い・楽しめる空間を官民が連携して創出



※航空写真出典：国土地理院地図

緑豊かな憩いの森エリア

賑わい創出エリア

普段使いも楽しめるスポーツパークエリア



※写真はイメージ